

令和4年度 金沢錦丘中学校 学校評価中間報告

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1 中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑤ 肯定的評価77%  【判定:C】(昨年度末:C)	・昨年度と比べてもあまり変化がない。学年が上がるごとに、A「よくあてはまる」と回答する生徒が減少していく。 ・2、3年次においても、挨拶の意義や良さを、伝える指導を行うとともに、できている生徒を全体の場で価値付け、認めていく指導を積極的に行っていく必要がある。
		提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑦ 肯定的評価88%  【判定:B】(昨年度末:B)	・昨年度に引き続き肯定的評価は高いが、A「よくあてはまる」と回答した生徒が11%増加した。 ・引き続き、見通しを持ち家庭学習等に取り組む指導を行っていききたい。
	1-2 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート② 肯定的評価91%  【判定:A】(昨年度末:B)	・昨年度に引き続き肯定的評価は高い。保護者アンケートや教職員アンケートにおいても同様に肯定的評価が高い。 ・引き続き、指導や働きかけを行っていききたい。
	1-3 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	1年生:4級11% 2年生:3級18% 3年生:準2級26% 【判定:D】	・6月に第1回の英語検定が行われた。
	1-4 朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書が好きである。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑧ 肯定的評価84%  【判定:B】(昨年度末:B)	・昨年度に引き続き肯定的評価は、80%を上回っている。どの学年においても、A「よくあてはまる」と回答する生徒は50%を越えている。 ・教科や委員会等の取り組みを続けていきたい。
		朝読書に、集中して取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑨ 肯定的評価92%  【判定:A】(昨年度末:B)	・A「よくあてはまる」と回答する生徒が昨年度と比べ、10%以上増加している。 ・今後も朝読書の意義や、落ち着きのある学校生活のスタートとして大切な取り組みであることを実感できるような指導を継続していききたい。
1-5 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をとおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート(教育活動⑭) 肯定的評価100%  【判定:A】(昨年度末:A)	・昨年度同様、迷惑調査や生活アンケートなどから、些細なことでも見逃さないという教員の意識は高い。また、教員間の情報交換も随時、職員室等でなされ、生徒の悩みや迷惑行為の早期発見ができている。 ・引き続き、積極的な生徒指導や迅速な事後対応等、組織的、かつ、丁寧に対応していききたい。	
1-6 生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価80%  【判定:B】(昨年度末:C)	・昨年度と比べ、大きな変化はない。A「よくあてはまる」と回答する生徒は、各学年で3割程度である。 ・各種調査なども活用し、様々な場面で肯定的な支援を積極的に行い、生徒の自己肯定感をあげるよう指導していききたい。	

2	道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にする豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	2-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にす る心、より良い社会の実現を目指すな どの道徳性を育む。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が 自己の成長や人を大切にす る心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価94%  【判定:A】(昨年度末:B)	・A「よくあてはまる」と回答した生徒は、2、3年生では、40%程度 だが、1年生は60%を越えていた。 ・今後も計画的に学校全体で道徳教育を進めていきたい。
		2-2	総合的な学習の時間や特活の時間を 中心に6年間を見通したキャリア教育を 実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や 目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑫ 肯定的評価80%  【判定:B】(昨年度末:C)	・昨年度に引き続き肯定的評価は高く、80%となり、A「よくあては まる」と回答する生徒も48%となっている。 ・否定的な回答をする生徒を少しでも減らしていけるような支援 等、工夫していきたい。
				キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑬ 肯定的評価92%  【判定:A】(昨年度末:A)	・肯定的評価は高く、A「よくあてはまる」と回答する生徒が50%い る。 ・中学校の特色の一つとなっていくよう、内容の更なる工夫・改善を 図ってきたい。
				将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑭ 肯定的評価78%  【判定:C】(昨年度末:C)	・肯定的評価は昨年度と比べ大きな変化はない。傾向として、A「よ くあてはまる」と回答する生徒は、学年が上がるたびに低下して いつている。 ・生徒の成長に伴い、現実が見えてきた分、不安を感じたり、自信 を失ったりすることが考えられる。キャリア教育を通じて、今の自分 がどのような考えで、どう行動することが未来や将来に繋がるかを 考え、行動させるための指導・助言を行っていく必要がある。
		2-3	学級会活動や生徒会活動において、1 年生から段階的に話し合い活動や自治 的な活動に取り組ませ、自主的・実践 的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り 組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑳ 肯定的評価89%  【判定:B】(昨年度末:B)	・肯定的評価は昨年度と比べ大きな変化はない。3年生において、 A「よくあてはまる」と回答する生徒は、30%を下回っている。 ・学年が上がるほど、A「よくあてはまる」と回答する生徒が増加し ていくよう、教師側の手立てを工夫をしていく必要がある。

令和4年度 金沢錦丘中学校 学校評価中間報告

重点指標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策	
3	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート 【教師:教材研究】 肯定的評価94%  【判定:A】(昨年度末:A)	・研究の重点「考える軸」や「ICTの活用」など、授業作りに対して意欲的に取り組んできた成果である。 ・今後も「自律的に学ぶ生徒」の育成を目指し、教材研究等進めていきたい。
		3-2 付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート 【教師】 肯定的評価94% 【生徒】 肯定的評価89%  【判定:A】 教師: -6%、生徒: +6%	・話し合い活動が、授業の中で積極的に取り入れられていると生徒が回答するとともに、教師側の意識も高い。 ・話し合う活動を設定するだけにとどまらず、効果的な活動になるよう工夫・改善していく必要がある。
		3-3 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教える、学びきる指導を行う。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑨) 肯定的評価67%  【判定:D】(昨年度末:B)	・肯定的評価が、昨年度と比べ17%減少した。B「ややあてはまる」の回答が19%減少している。 ・夏期休業を利用した補習やサマースクール等の取り組みは行ってきたが、2学期以降にも下位層に焦点を置いた手立ての工夫が必要である。
	確かな学力の育成学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-4 論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑥) 肯定的評価95%  【判定:A】(昨年度末:A)	・昨年度と比べ、肯定的評価は5%減少したが高い評価である。 ・引き続き研究の重点「考える軸(見方・考え方)を明確にした指導」を基に、論理的思考につながる言語活動について工夫・改善を行っていきたい。
		3-5 批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑧) 肯定的評価95%  【判定:A】(昨年度末:A)	・昨年度と比べ、肯定的評価は5%減少したが高い評価である。 ・研究の重点「考える軸(見方・考え方)を明確にした指導」を基に、多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、「批判的思考力」を身に付けさせたい。
		3-6 高校の学習内容を視野に入れてた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート (教育活動⑫) 肯定的評価94%  【判定:A】(昨年度:B)	・昨年度と比べ、肯定的評価が9%増加した。 ・年間計画や単元計画の見直しなど、行ってきた成果と言える。引き続き教科部会を中心に見直し・改善等行っていきたい。
		3-7 自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート⑥肯定的評価60% 保護者アンケート③肯定的評価68% 教職員アンケート肯定的評価89%(生徒について⑥)  【判定:B】(昨年度末:B) 生徒: +3%、保護者: -2%、 教職員: -1%	・昨年度と比べ、大きな変化はない。 ・ただし、生徒アンケートの数値は低いため、家庭学習の重要性など、キャリア教育等も絡めた指導を行い、「フォーサイト」などを活用しながら、計画的・自主的に学習を進められるよう指導する必要がある。

4	教職員の働き方や業務改善に関する意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。	4-1 長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。	時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0~2人 C 2~4人 D 4人以上	時間外勤務時間 月80時間を超える教職員の数 月平均5人(4~7月) 【判定:D】(昨年度末:C)	・昨年度と比べ、平均が3人増加している。 ・様々な業務内容の精選を行いながら、無駄な業務を削減しつつ、必要な業務に対して見直しを持ち、計画的に進められるような提案等が必要である。
		4-2 中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	保護者アンケート⑦ 肯定的評価84% 【判定:C】(昨年度末:B)	・昨年度と比べ、肯定的評価に大きな変化はない。 ・今年度も、ホームページなどを中心に、学校の様子などを随時、発信していきたい。
			秋の学校説明会参加者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満		・春の学校公開は、児童225名、保護者239名、計464名。夏のオープンキャンパスは、児童229名、保護者249名、計478名の参加があった。
			適性検査の受験者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満		